

嶋田智明(監修), 日高正巳(編)

地域理学療法にこだわる

平上二九三
(吉備国際大学)

本書は理学療法にこだわった書籍である。そのこだわりはリハビリテーションに対してではなく理学療法に対してであり、しかも 15 年もの先を見据えて社会に貢献できる地域理学療法の進むべき方向性を描いている。本書の最大の特徴は、時間軸・場面軸・技術軸・対象軸・政策軸という 5 次元からの構成である。特に地域を時間的・空間的に統合することにより、「生活」にそして「人生」に深く関わる理学療法をめざしている。すなわち、地域理学療法を“Life Based Physical Therapy；生活・人生を基盤に考え・関わる理学療法”として位置づけたフレームワークとなっている。

その理念を踏まえた 42 名の執筆者は、何のために地域理学療法をするのかを問い続け、独自の専門性を築き上げてきた開拓者達である。「今、PT に求められていることは？」「社会や時代のニーズの変化は？」「PT が進むべき道は？」「PT が果たすべき役割は？」に正面から答えている。筆者一人ひとりがジェネラリスト・スペシャリスト・プラクティショナーであり、経験豊富な著者からのエキスパートオピニオンは実践力を格段に上げるヒントとなる。

本書は、臨床実践における心得や指導方法について、要点を的確に押さえ分かりやすく解説されている。各章とも、臨床現場で痛感する事柄が取り上げられており、実践的な問題を解く手がかりを与えるものとなっている。地域理学療法におけるあらゆる事例や場面において必要とされるアプローチや、関わり方のコツ、ティップスがふんだんに紹介されている。本文と関連性の高いトピックスの記事のコラムは、バーチャルに見てわかり、すぐに役立つ構成で仕上げられている。

一度の理学療法で感動を与える PT は、一口食べて感激する料理を作る名シェフに似ている。理学療法を受けた人が PT のすばらしさを肌で知り、他では味わえない技量を感じさせてこそ専門職といえよう。名シェフのような PT が、郵便局の数くらい地域に点在してほしい。PT を取り巻く社会の仕組みは急速かつ大幅に変化するのに対し、残念ながら時代のニーズに PT が十分応えられておらずギャップが生じているように感じる。良識と実力のある PT が、これまで以上に理学療法の専門性を示す必要がある。健康寿命の延伸が国民の関心事になっている今こそ、「地域理学療法にこだわる」をアピールしなければならない。そんな期待をしっかりと背負ってくれる良書である。

●B5 判・428 頁・2 色刷
定価 6,825 円(本体 6,500 円+税)
2010 年 文光堂・刊